



ミクロネシア連邦での 失われつつある伝承をビデオで記録し、 インターネットで公開するプロジェクト

NPO法人パシフィカ・ルネサンス 代表理事
長岡拓也 Takuya Nagaoka



>>> 背景

ミクロネシア連邦の島々では、戦後の急速な近代化はライフスタイルの変化を引き起こし、数百年・数千年にわたって受け継がれてきた民族の叡智である伝統文化を衰退へと追いやった。現地政府の施策も十分ではなく、伝統的な知識は適切に記録されることなく失われていっている。また現地住民がアクセスできる島の文化や歴史に関する情報も非常に限られている。若者は伝統文化に興味を失いつつあり、若年層を中心に全人口(107,000人)の3分の1が米国へ出稼ぎに行っているため、今後伝統文化の継承が難しくなっていくと考えられる。



離島の海辺で遊ぶ子供達

こうした状況の中で、オセアニアの現地住民による伝統文化の復興・再生(ルネサンス)に貢献するために、文化や歴史の記録、調査、教育での活用に取り組むことを目的として、NPO法人パシフィカ・ルネサンスは青年海外協力隊OBやオセアニア研究者を中心に2014年に設立された。設立以来、当NPOは、ミクロネシア連邦、特にポンペイ州での現地活動とインターネットを利用した啓発活動を中心に行っている。ミクロネシアでは、後述する伝承記録プロジェクトに加え、ポンペイ島のナンマトル(ナンマドール)遺跡やヤップ島の石貨遺跡の世界遺産登録に向けて、現地政府に対して技術協力を行っており、ナンマトル遺跡は2016年にこの国で初めて世界遺産に登録された。また海外の博物館・古文書館などで保管されている歴史・学術資料を現地コミュニティと共有する取り組みも行っている。今年はポンペイ州教育局と協働して歴史・文化の学校教材の作成を開始する予定である。インターネットでは、フェイスブック・ページ^{*1}を利用して、オセアニアの伝統文化・歴史に関する情報の発信しており、現在7,300人のフォロワーがいる。ユーチューブ^{*2}では、伝承の語りを記録したビデオに加えて、ポンペイ州の文化イベントやオセアニアの歴史・文化に関する講演を記録したビデオを公開している。

>>> 伝承記録プロジェクト

これらの活動に加えて当NPOの力を入れて行っているプロジェクトが、KDDI財団から2016年度社会的・

文化的諸活動助成をいただいている、ポーンペイ州の島々で口頭伝承を記録し、インターネットで公開するプロジェクトである。元来文字を持たないミクロネシア人は、民族の重要な情報を代々口頭で継承してきた。中年以上の人々にとっては、就寝前に父母・祖父母などから昔話を聞いていたという子供の頃の思い出があるが、近年この習慣はビデオなどの他のメディアに取って代わられてしまった。こうした伝承はほとんどが記録されておらず、現在の老人の世代がなくなると永遠に失われてしまうという危機に瀕している。そのため口頭伝承を記録し、若い世代に伝えるために、設立以来、私達はポーンペイ州で古老しか知らない神話・おとぎ話・昔話・歌謡をビデオカメラで記録し、その映像をユーチューブ上で公開している。

私は、以前にも口頭伝承の記録をポーンペイ島とその離島であるモキッロ環礁で行ったが、その際は伝承を報告書や本で公開するために録音して記録していた。しかしこうした印刷物は限られた部数しか印刷できないのに加え、現地の人々にとって本来口頭で伝えられる伝承を読むことは労力のかかる作業である。それに対して、現代の技術とメディアを利用して記録・公開するという現在行っている方法は、まだオセアニアの島々では十分に活用されていないが、簡単さ・ビデオの視覚性・ソーシャルメディアの拡散能力から今後の活用に大きな可能性を持っている。こうした意味で、本プロジェクトはこれからのオセアニアにおける伝統文化の保存・教育事業のモデルとなりうる先駆的な試みであるといえる。

これまでに、私達はポーンペイ州の5離島を中心にプロジェクトを行ってきた。ポーンペイ本島に住む離島の人々を対象としているのに加え、数カ月毎に離島を周る政府の貨客船を利用して活動を行っている。このプロジェクトは、伝統が失われつつあるという危機感を持つ地元伝統首長・老人・その他のコミュニティのメンバーから多大な協力を得ている。

NPOのユーチューブ・チャンネルは、2015年3月の開設以来、95,000を超えるアクセスを得ている。総アクセス数のうち8割がミクロネシアからの出稼ぎ者が多い米国からで、若者を中心とする多くのミクロネシア人の関心の高さを物語っている(2番目にアクセスが多いミクロネシアからのアクセスが12%と低いのは、ネット普及率の低さに関係する)。特に出稼ぎ中のミク



(写真上) 離島での伝承の記録

(写真下) 離島で昔の手遊びの記録に集まってきた村人

ロネシア人は、異文化と接触することにより、自分達のアイデンティティの見直しや子供の教育のため、文化・歴史に関する情報を渴望しており、ニーズは大きい。

今年度より現地で文化行政を担当するポーンペイ州歴史保護局と協働してこのプロジェクトを行っている。同局は伝統文化の記録・継承に関して重要な役割を果たすべき政府機関であり、これから数年間このプロジェクトを一緒に行うことにより、今後伝承の記録が継続的に行われるきっかけとなることが望まれる。また同局とは、島全体に届く唯一のメディアであるラジオを利用した、歴史教育のプログラムを協働で作成し始めた。

今後、ポーンペイ州において、歴史・文化に関する教育(特に情報通信技術の利用)、海外に保管されている歴史・学術資料のインターネットなどでの共有化、芸術の振興、関連機関への技術協力などの活動を多角的に展開することにより、伝統文化の活性化に取り組み、オセアニア島嶼国での伝統文化復興運動に貢献するモデルになるような活動に発展させたい。またオセアニアの他地域へ活動を波及させるため、ミッションを共有する研究者・政府機関・NGO・コミュニティなどとの協働を模索していきたい。

(注) * 1 <https://www.facebook.com/PasifikaRenaissance>

* 2 <https://www.youtube.com/channel/UCnmyAfrAD0u4MpUF9jLgag>